

(資料提供)

月 日(曜日)	担当館名	電話	担当者
4月10日(金)	県立近代美術館	電話 088-668-1088 ファクシ 088-668-7198	学芸調査課 安達、吉川 企画交流室 森
	文化の森企画広報室		

開館 25 周年記念「所蔵作品展 2015」 「特集 新収蔵作品を中心に」の開催について

1. 趣旨

所蔵作品展は、当館のコレクションを紹介する展覧会です。今年度は、開館 25 周年記念と銘打って、例年の「特集」「20 世紀の人間像」「徳島ゆかりの美術」「現代版画」の 4 コーナー展示ではなく、1 年間を通じて特別編成で所蔵作品をご紹介します。

所蔵作品展 2015(4/11～7/26)の特集コーナーは、「新収蔵作品を中心に」「徳島ゆかりの美術」「現代版画」の 3 つです。同時開催ではなく、5 月 18 日と 6 月 22 日にそれぞれ特集の展示替を行います。また、特集コーナーのほかに、「小コーナー 美術館が生まれた頃 1990 年頃の作品を中心に」「徳島県立近代美術館名品選」の 2 つのコーナーを設けました。

この資料提供では、「特集 新収蔵作品を中心に」の会期(4/11～5/17)の展示について、ご案内します。

2. 会期 平成 27 年 4 月 11 日 [土] ～5 月 17 日 [日]

3. 会場 徳島県立近代美術館

4. 開館時間 午前 9 時 30 分～午後 5 時

5. 休館日 月曜日 (5 月 4 日は開館します)、5 月 7 日(木)

6. 観覧料 一般 200 円(160 円)
高校生・大学生 100 円(80 円)
小学生・中学生 50 円(40 円)
高齢者(65 歳以上)、障がい者とその介助者 1 名は無料

※ ()内は 20 名以上の団体料金です。

・小学生、中学生、高校生は、土・日・祝日、振替休日は、無料となります。

・大学生、一般は、祝日、振替休日は無料となります。

7. 内容

【特集 新収蔵作品を中心に】

会場：展示室 1

出品点数：16 点

内容： 特集の最初は、年度最初の所蔵作品展恒例の、昨年度新たに収蔵した作品のお披露目です。昨年度、13 点の作品が、新たにコレクションに加わりました。

まず、青木千絵の〈BODY 08-1〉は、天井から吊り下げられる大型の彫刻です。「私は何者か」という問いをテーマとしたもので、漆を使って作られています。上下に延びる抽象的な形と、リアルな臀部から足先、腹部に豊かなボリュームを持つ人体とが融合する姿、漆という素材とそれを磨き上げる技法から生まれる艶と映るものを吸い込むような黒により、人の内外に潜む得体の知

れないものが表されています。これまでに収蔵したアルベルト・ジャコメッティ、黒川弘毅、津田亜紀子の彫刻と合わせて、人間像の生成、存在、広がりなどに思いを馳せていただければ幸いです。

そのほか、森口宏一が「私は私の環境である」という考え方に基づいて自分の肉体を対象化・再構築した作品、ランドアート作家として知られる大久保英治の版画作品。現在の徳島県阿南市出身で昭和戦前期から戦後間もない時期にかけて、徳島の美術界を盛り立てた洋画家のひとりでありながら、残された作品がほとんど確認できない渡瀬政近の作品。同じく阿南市出身で日本の現代版画界の重鎮・吹田文明の近作。昨年の回顧展開催をきっかけに寄贈された三宅克己(現在の徳島市出身)の水彩画。石川真五郎(現在の板野町出身)の静物をモチーフとした油彩画をご紹介します。

【小コーナー 美術館が生まれた頃 1990年頃の作品を中心に】

会場：展示室1

出品点数：14点

内容： 徳島県立近代美術館が開館したのは25年前、1990年11月3日のことです。このコーナーでは、その時代に発表された作品を紹介します。

まず、どんな時代だったのかを簡単に振り返ってみましょう。海外に目を向けると、まさに激動の時代でした。1990年10月には東西ドイツが統一。翌年にはソビエト連邦が崩壊することによって、東西冷戦が終結を迎えます。一方、1990年のイラクのクウェート侵攻に端を発し、翌年に湾岸戦争が勃発します。しかし、この頃に制作された作品は、直接的に時代の転換に対応したものではありません。ドイツ出身のアンゼルム・キーファーやポーランド出身のマグダレーナ・アバカノヴィッチは、自国に転換期が訪れる以前の歴史をふまえた作品を発表しています。

一方、日本では1989年に元号が昭和から平成に変わりました。また、バブル景気が終わりを迎えようとしていた時期にあたります。太郎千恵蔵の高級な子供服を纏った頭部のない像や秋山祐徳太子のブリキの男爵像はこの時代の雰囲気に対する違和感を表しているようにも見えます。

【徳島県立近代美術館名品選】

会場：展示室2

出品点数：16点

内容： ここでは、例年の当館コレクションの3つの柱、「20世紀の人間像」、「徳島ゆかりの美術」、「現代版画」をコンパクトにご紹介します。

「20世紀の人間像」は、変革期となった明治以降の美術を、「人のかたち」を手がかりにして楽しんでいただくことができるテーマです。ここでは、20世紀美術を代表するピカソ、クレー、レジェなど海外の作家、椿貞雄、熊谷守一、安井曾太郎のように、日本近代美術史の中で独自の展開を見せた作家の作品を展示します。

「徳島ゆかりの美術」は、徳島県の美術館として力を入れている分野です。本県出身作家の作品、徳島を訪れた県外の作家による風景や風物を表した作品をコレクションしています。ここでは、本県出身の代表的作家として、伊原宇三郎、山下菊二、広島晃甫らの作品をご覧ください。

「現代版画」は、テクノロジーの発達によって、ビジュアル文化が大きく変化した20世紀の美術を捉えるとき、すぐれた切り口になると考えています。モチーフも人間表現にとどまらず、幅広く収集しています。シャガール、マチス、

長谷川潔、横尾忠則の作品をご紹介します。

- このほかに、美術館ロビー、屋外展示場、彫刻の小径に 12 点を展示します。
- 展示作品の合計は、45 作家による 58 点となる予定です。
- ・都合により内容が変更になる場合もあります。

8. 関連事業

【テーマで知る名品 新収蔵作品紹介ーこの作品を買った理由】

日時 : 5月4日(月・祝) 午後2時~2時45分
場所 : 展覧会場
講師 : 学芸員
対象 : 一般
内容 : 新収蔵作品をご紹介します。
料金 : 無料 (祝日は所蔵作品展は無料です)
申込 : 不要

【テーマで知る名品 美術館が生まれた頃】

日時 : 5月6日(水・祝) 午後2時~2時45分
場所 : 展覧会場
講師 : 学芸員
対象 : 一般
内容 : 「小コーナー 美術館が生まれた頃 1990年頃の作品を中心に」の展示解説
です。
料金 : 無料 (祝日は所蔵作品展は無料です)
申込 : 不要

【広報用画像の提供について】

展覧会の広報用として、次の作品の画像を提供できます。

必要な場合はご連絡ください。

提供方法は、画像データの提供となります。

使用に当たって、作者名、作品名、徳島県立近代美術館所蔵の旨は、必ず表示してください。

- 作者名 青木千絵
- 作品名 〈BODY 08-1〉
- 制作年 2008年
- 技法材料 漆、麻布、発泡スチロール (乾漆技法)

